

■業務概要

〈プレフォーミュレーション研究室：物性研究 / 生物薬剤学研究〉

プレフォーミュレーション研究室では、創薬の初期段階から臨床につなぐ重要な役割を担っています。物性研究と生物薬剤学研究の二つの専門分野において、創薬研究のプロジェクトチームの一員として、製剤開発に向けた物理化学的（物性）あるいは生物薬剤学研究を行います。当研究室では、希望や適性に応じて、物性研究と生物薬剤学研究のいずれか、あるいは両方の分野で活躍することができます。

◆物性分析研究：

物性分析研究では、開発候補となる化合物の物理化学的特性（結晶形、結晶性、物理化学的安定性、溶解性、吸湿性など）を種々の分析技術を駆使して詳細に調べ、開発適性の高い化合物を選定します。候補化合物の特性や投与経路に応じた物性改善（塩・共結晶スクリーニング、非晶質製剤の検討など）を行い、開発に最適な結晶形を決定します。動物試験用の製剤処方検討や製剤の提供も担当します。

◆生物薬剤学研究（製剤の吸収性）：

生物薬剤学研究では、候補製剤（経口固形剤、注射剤など）の吸収性評価を行います。動物を用いた吸収性試験、in vitro溶出試験、あるいはモデリング & シミュレーションの手法（PBBM）を用いたヒトPK（薬物動態）予測を行い、in vivo（ヒトの体内）でのパフォーマンスを最大化できる製剤処方を決定します。

■大切にしている思い

私たちのミッションは、物性や生物薬剤学の専門知識を活かして、開発に最適な化合物や製剤を選定することです。このミッションを達成するために、自ら考え行動する力とオープンなコミュニケーションを大切にしています。課題を見つけ、解決に向けて主体的に取り組むことで、個人としても組織としても持続的な成長を実現します。

■求めている人物像

- コミュニケーション能力の高い方：様々なバックグラウンドを持つ専門家と協働することから、円滑にコミュニケーションをとり、チーム全体で目標を達成できる方を歓迎します。
- 学習意欲の高い方：自身の専門性にとらわれず、柔軟に新しい知識や技術を吸収し、持続的に成長できる方を求めています。入社後は、しっかりとした育成プログラムを用意していますので、物性研究・生物薬剤学研究の未経験者でも心配ありません。